

## 海と食卓を守る技術と現場のマッチング

八木信行 農学生命科学研究科

このイニシャチブは、農学と工学の協働により、海と食卓を守るための新しい技術ニーズの発掘や、既存技術の活用を促進させることを目的としたものである。例えば、2011年から日本で話題となることが多くなった再生可能エネルギーについては、風力発電などの技術の長所と短所などを漁業協同組合の関係者に対して適切に伝達することで、漁業者を含めた地域産業を構築するなどのビジネスチャンスが芽生える可能性もある。

風力発電用のプラントは、水平に風が受けることがメンテナンス上も重要になるため、斜め下から風を受ける山間部よりも、沿岸または海上などに設置するニーズが高い。しかしながら、沿岸または海上に設置する場合は、漁業権などを有する漁業者と円滑な調整を行うことが課題となる。風力発電の事業者としては、プラントを設置させるための初期投資額を抑えるために、漁業補償などを回避したいというニーズがある。

一方、風力発電による発電量は、風速の3乗に比例

して増加するとされる。漁業者としては、風が強く海が荒れた日は漁業操業ができないが、代わりに風力発電の発電量は増加する。風力発電事業に参画し、売電すれば悪天候による漁業休業期間の収入を得ることにつながる。

このような双方のニーズをマッチさせる新しい手法を確立するための検討を行った。具体的には、業界3位の日本風力開発株式会社を訪問し、問題点の抽出や、その解決方法について調査を行った。更に、岩手県久慈市を訪問し、漁業者と事業者が風力発電設備の設置の方向性について調整するための会合に同席するなどし、現場の状況を情報収集した。加えて水産庁が業界団体を交えて自然再生エネルギー問題を検討する会合に出席し、以上の調査で得られた情報をインプットする等の作業を行った。この活動を通じ、風力発電事業者と漁業者の調整という困難な課題についても、海洋アライアンスがシンクタンクの機能を果たす端緒が開かれたと考える。